



QlikViewでアクションにつながる分析を実現！ 保険商品の損害率分析や傾向分析から 損害サービスの強化と収益管理を向上

「この島の損保。」という経営理念に基づき、沖縄に根ざした損害保険事業を展開する大同火災海上保険。損害率分析やリスク分析など従来1週間を要していた分析業務を、QlikViewでわずか10分に短縮。分析を高度化させ、より多くの仮説を検証できるようになりました。台風の経路分析から被害リスクを予測し、被害防止の取り組みにもQlikViewを役立てています。

この島の損保。 大同火災

大同火災海上保険株式会社

1950年、沖縄で初の損害保険会社であった前身の琉球火災海上保険が創業して以来、沖縄県民の安心と安全をサポートし、損害保険会社としての公共的使命を果たす取り組みを展開しています。

本社：沖縄県那覇市久茂地1丁目12番1号
創業：1950年9月8日
資本金：10億5,400万円
従業員数：276名（2013年3月末現在）
URL：http://www.daidokasai.co.jp/

（取材日：2013年12月）

POINT

1 保険商品の売上分析、リスク分析、損害率分析にQlikViewを活用し、数字分析力を向上

2 QlikViewを議論の土台にその場で仮説検証しながら意思決定を迅速化

3 事故や台風の被害分析を基に、再発防止の対策を提言

課題

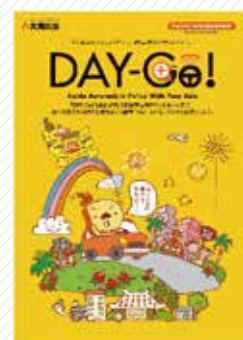
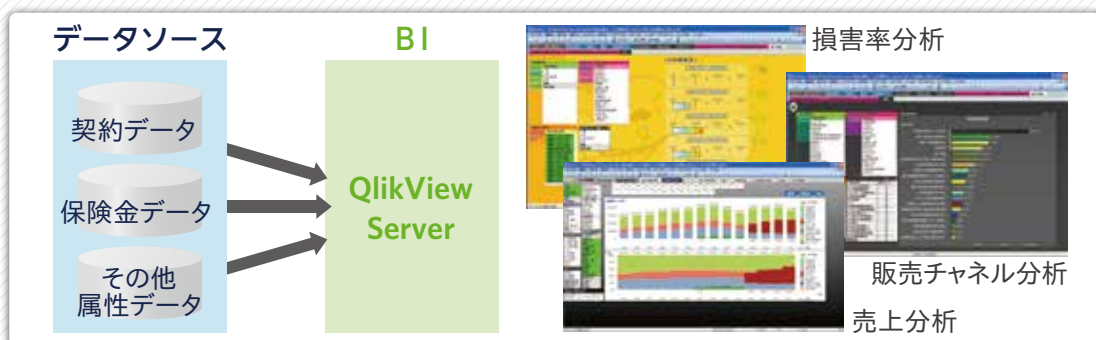
対策

効果

- 保険料算出の決定要因となる50項目のうち、限られた項目の集計データしか分析できない
- 分析用にはデータ準備やMS-ExcelとMS-Accessを使った作業に1週間を要する
- 経営層への迅速な分析結果の報告が難しい

- 大量明細データを分析対象にし、より多くの仮説を検証して商品企画に活用できるようにする
- 小規模に導入でき、すぐに効果を実感できるQlikViewを採用する
- 正確性が担保された分析結果を迅速に経営層に提供する

- 保険料算出の決定要因となる50項目すべての明細データを分析できるようになった
- 分析用のデータ準備を含めわずか10分に短縮、より多くの仮説検証に注力できるようになった
- 意思決定のスピードを上げ、収益管理の向上につながった



QlikView

保険事業の要となる 数字分析の重要性とは

大同火災海上保険は、自動車保険や火災保険などの商品開発から販売、損害サービス提供まで一貫した損害保険事業を展開しています。万一事故や火災などが発生した場合には、お客様からお預かりした保険料に対し、数十倍から数千倍もの保険金をお支払いするため、損害発生予測や収益管理が非常に重要になっています。事業の要となる分析の重要性について、業務部 商品企画課長代理 川上良一氏は次のように語ります。

川上氏 ある一定の確率で事故や災害が起きてしまうことを前提に、過去のデータから損害率を分析し、保険料を算出します。しかし、自動車保険だけでも、対人保険や対物保険、車両保険、傷害保険など複数の保険商品で構成され、かつ契約者の年齢や性別、車種など、保険料には50を超える決定要因が含まれるため、詳細で複雑な分析が求められます。



川上良一氏

これまで利用していたMicrosoft ExcelやAccessでは、大量の明細データを扱えなかったため、分析にはある程度集計されたデータを対象にせざるを得ず、決定要因となる項目数の分析も限られていました。

BIツールの導入について、常務取締役 島田洋之氏はこう語ります。

島田氏 代理店さんの形態も多様化しており、個人、企業合わせて約1,400に及ぶ代理店と、約17,000人の募集人に対する施策も課題となっていました。地域特性を活かした損害サービスの提供と収益管理の向上に向けて、分析ツールの導入を決めました。

小さく導入して成功を重ねる Small Start Quick Win

2011年6月から分析ツールの検討を開始し、9月までの3カ月間で、製品選定とトライアルを実施し、QlikViewの採用を決定。2012年1月より導入を開始しています。

川上氏 インメモリデータベースの搭載により、今まで扱えなかった大量項目のデータを高速に

分析できる点を評価しました。また基本的な操作はGUIベースで使いやすく、ユーザの拡大・継続性を確保できる点でも、プロジェクトの目的に最も合致したツールとして採用を決めました。

導入に先駆けた技術的な質問にはアシストが対応してくれました。また、2週間に1回の定例ミーティング、社内勉強会にもオブザーバーとして参加してもらい、QlikView導入に向けて大きなサポートをいただきました。

QlikViewには、契約データと保険金データ、その他の属性データを月次処理で取り込み、売上分析や販売チャネルの契約分析、リスク分析、損害率分析等に活用しています。主な利用部門は、商品企画部門、営業企画部門、リスク管理部門、システム部門で、約10名のメンバーが携わっています。大規模な損保会社であれば数百人の要員を配置していると思われるが、当社ではこの体制で行っています。

島田氏 この導入コストで本当に使えるのであれば、QlikViewは非常に投資対効果の高いツールだというのが第一印象でした。小さく導入してすぐに効果を得る“Small Start Quick Win”を積み重ねてQlikViewを社内の基幹ツールにし、いつでも自由に知りたい情報にアクセスして、データ活用の風土を醸成できることを目指しました。

QlikViewを議論の土台に ディスカッションを深く掘り下げる

システム面の効果について、情報システム部 システム開発課 盛小瀬太樹氏は次のように語ります。

盛小瀬氏 従来は現場の依頼に応じてデータを抽出する作業に2~3週間かかっていましたが、QlikViewには必要な明細データを予め取り込むようにしたので、抽出依頼はほぼゼロになりました。分析の現場では、データ加工と集計の作業がわずか10分に短縮されたほど効果を上げています。



盛小瀬太樹氏

川上氏 QlikViewの連想技術であらゆるデータがつながっているため、条件や分析軸を変えながら、これまでより多くの仮説を検証できるようになりました。また、QlikViewの導入後は会議の進行速度が上がり、意思決定のスピードも速まりました。

経営面の効果について、島田氏はこう語ります。

島田氏 精度の高い分析結果は、経営層に強いメッセージと説得力を与えます。数字から得られる情報量が増えることで、より迅速で合理的な意思決定が可能になり、収益管理の機能が向上しています。

台風の経路と被害状況を マッピングして傾向分析に活用

台風の常襲地域である沖縄では、過去の台風情報から将来の対策を立てる必要があります。同社では、気象庁による台風の経路予測と被害状況を地図上にマッピングし、どの経路を通ると、どの地域に、どれくらいの被害があるのか予測することを目指しています。

川上氏 台風襲来後の保険金のお支払い状況の分析は、従来はお支払い金額のトータルまでしかわかりませんでした。現在はQlikViewを活用して、ガラス窓やシャッター、屋根、壁など損害箇所ごとに30項目にわたる損害状況を把握できる取り組みを進めています。

詳細な分析が可能になることで、台風に耐性のある建材での街づくりを提言したり、事故の多発地域には対策を促すなど、適切なタイミングで働きかけられるようになりつつあります。

島田氏 有事に保険金をお支払いすることはもちろん、事故や災害を減らしていく予防の取り組みも保険会社の使命の一つです。QlikViewでの分析結果は、お客様のリスク軽減のアクションにも役立てていきたいと思っています。

今後は、天文学的な数のパターンになる保険料の条件変更の影響分析や、システム利用ログ分析等にも用途を広げ、企業としての数字分析力と損害サービスの向上に活用していく予定です。



島田洋之氏とデイゴーマン

お問い合わせは **株式会社アシスト**

URL <http://www.ashisuto.co.jp/product/category/bi/qlikview/> E-Mail qlikview@ashisuto.co.jp

東 京 〒102-8109 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷東急ビル	TEL:03-5276-3653	大 阪 〒530-0011 大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 13F	TEL:06-6373-7113
札 幌 〒060-0808 札幌市北区北8条西4-1-1 パストラルビルN8 5F	TEL:011-746-8484	広 島 〒730-0011 広島市中区基町12-3 COI広島紙屋町ビル 3F	TEL:082-224-6170
仙 台 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア 19F	TEL:022-713-5802	福 岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勤筑業通ビル 9F	TEL:092-481-7156
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ 4F	TEL:052-232-8211	沖 縄 〒900-0014 那覇市松尾1-10-24 ホークシティ那覇ビル4F	TEL:098-943-2276
金 沢 〒920-0853 金沢市本町2-15-1 ボルテ金沢 8F	TEL:076-260-4921		